

第 40 回国際 P2M 学会秋季研究発表大会結果報告

大会実行委員長 千葉工業大学 新谷幸弘
大会実行副委員長 千葉工業大学 下田篤

1. はじめに

2025 年 11 月 2 日（日）、千葉工業大学津田沼キャンパスにて、国際 P2M 学会創立 20 周年記念として第 40 回国際 P2M 学会研究発表大会（2025 年度秋季）が開催された。本大会は対面形式で実施され、午前に研究発表／特別セッション、午後に講演、Vision2030 策定委員会報告、ラウンドテーブルが編成された。



図 1 会場（千葉工業大学津田沼キャンパス）

2. 実施内容

2.1. 研究発表／特別セッション

午前（9:20-12:05）は、A～D 会場で研究発表が、E 会場で特別セッション（社会システムマネジメント研究会）が実施された。研究発表トラックは「P2M の応用と手法」「P2M の組織／業務への応用」「P2M に基づく社会実装」「R&D 社会実装マネジメント研究会、博士人材と指導教員の醸成 SIG」等で構成され、多様なテーマで発表と討論が行われた。23 件の発表の中から森田晃世氏「二面的目的を持つプログラムの成果達成のためのマネジメントに関する研究—JICA 草の根技術協力地域活性化事業における国内還元に着目して—」、大島圭子氏「P2M に基づく環境保全助成プロジェクト評価制度の研究（第一報）～ 地球環境基金助成事業の構造転換に伴う指標設計 ～」、関宣昭氏「東田グリーンビレッジ構想における市民主体型 P2M の構造分析」、永井亮氏「非営利組織中心の多主体協働型プログラム助成金制度の設計と実証的考察—地球環境基金『戦略プロジェクト（政策課題協働型）』の事例研究—」の 4 件が発表奨励賞を受賞した。



図2. A会場での発表の様子



図3. B会場での発表の様子



図4. C会場での発表の様子



図5. D会場での発表の様子

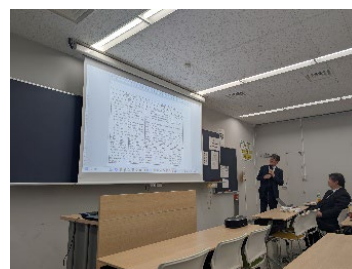


図6. E会場での発表の様子

2.2. 研究発表／特別セッション

午後の部の冒頭（13:30-13:40）では、国際P2M学会会長 亀山秀雄氏による開会挨拶が行われた。



図7. 開会挨拶の様子

2.3. 記念講演

記念講演（13:40-14:10）では、千葉工業大学未来変革科学部 学部長 関研一教授が登壇した。題目は「高臨場感オーディオ技術によるサウンドスケープの再生：音を使った観光誘致プロジェクト」であり、南房総市のサウンドスケープを高臨場感オーディオとして収録・再生し、心理的印象評価に基づく分析結果を踏まえて、観光プロモーションへの展開可能性が示された。



図8. 記念講演の様子

2.4. 基調講演

基調講演（14:10-14:50）では、名誉会長 吉田邦夫氏（東京大学名誉教授）が登壇した。題目は「20周年にあたって」であり、教育環境や世界秩序の変化等の論点を踏まえつつ、今後の社会変化の中で P2M の強みと方向性を国内外に明確に発信していく重要性が示された。



図9. 基調講演の様子

2.5. 国際 P2M 学会 Vision2030 策定委員会報告

Vision2030 策定委員会報告（15:00-15:40）として、Vision2030（国際 P2M 学会会長 亀山秀雄）をはじめ、各部会（大会企画委員会、P2M マガジン編集委員会、セミナー企画委員会）からのアクションプラン、ならびに SIG/研究会（博士人材と指導教員の醸成 SIG、社会システムマネジメント研究会、R&D・社会実装マネジメント研究会）からの報告が行われ、学会活動の将来像を具体化する論点が共有された。

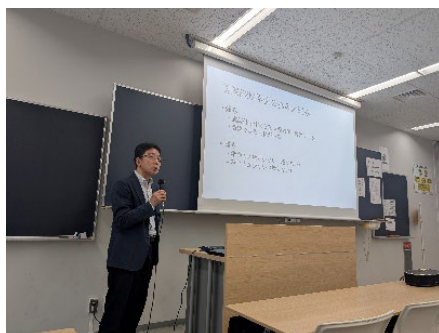


図10. Vision2030 策定委員会報告の様子

2.6. ラウンドテーブル

ラウンドテーブル（15:50-17:00）は「マネジメントの専門職人材の育成」をテーマにパネル討論形式で実施された。コーディネータは小笠原秀人教授（千葉工業大学）と本稿執筆者（新谷幸弘/千葉工業大学）であり、発表者としては加藤亨氏（PMAJ 理事長）、関宣昭氏（特定非営利活動法人 里山を考える会 代表）、大島圭子氏（独立行政法人 環境再生保全機構 博士）、岡田久典氏（早稲田大学上級研究員）が登壇した。討論内容の詳細は別稿にまとめる。



図 1 1. ラウンドテーブルの様子

2.7. 閉会挨拶

閉会挨拶（17:00-17:10）をもって、大会の全日程を終了した。

2.8. 情報交換会

本大会では情報交換会も開催され、研究発表・講演・ラウンドテーブルで提示された論点を起点に、自由闊達な意見交換が行われた。



図 1 2. 情報交換会の様子

2026 年 1 月 26 日受理